

Hello

2006

1

No.248

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

財神奈川国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーび 35c) 1階 ☎045-896-2626

## 特集

# 日本の中にある フィリピン文化



2004年11月に基本合意された日比 FTA（自由貿易協定）により、フィリピン人看護師・介護士の日本への受け入れが決まった。

海を越えて、毎年200人程のフィリピン人看護師・介護士の人たちが、日本を訪れる。



今回の特集では、海を越え日本で暮らして10年以上、子育て、仕事、地域での活動に取り組む一人のフィリピン人女性にお話を伺った。

日本での生活の中で、母国の料理や文化を伝えることを通して、母親としての自信、「ちがい」を豊かさに変える力を、確かに感じている。



これからますます、私たちは「多様な」文化や人たちに会う機会が増えてくる。

私たちにとって今大切なことは、ともに学んだり、ふれあうことによってさまざまな生き方を感じることができるよう、心を外に向けて開いておくことかもしれない。





## 谷口 マリキタさん

フィリピンから来日して10年以上。日本で子育てや仕事をしながら、インターナショナルキッズクラブなどの地域での活動にも幅広く携わるマリキタさん。マリキタさんが常に発信し続けるフィリピン文化、食、歴史の中にある思いは何か。お話を伺った。

### ●日本での生活

来日した直後は近くの教会のミサに行き、戸惑いながらも日本の生活に慣れようとしたマリキタさん。日々の生活では慣れない日本文化や習慣、そして周囲からの「日本人とは何か違う」という視線がつきささり、涙を流したことは数え切れない。娘さんが幼稚園に通いはじめると、娘さんもマリキタさん自身もさまざまな困難に直面した。

ある時は、幼稚園からのお知らせで「今日は体操服で来て下さい」と書かれてあっても、日本語が読めないため制服で行かせてしまった。「娘は泣きながら『私だけみんなと違う』と言って、バスに乗りたがりませんでした」とマリキタさんは言う。「後で着替えを持っていくから」と送り出したが、去っていくバスの後姿を見つめる目からは悔しさと悲し

さで涙がこぼれた。小学校にあがってからも、学校からの連絡帳が読めなかったため、ボランティアの方に内容を教えてもらったり、時には学校の先生に「連絡帳にはひらがなや、カタカナを使用するようにして下さい」と掛け合ってくれたこともあった。

「今思うと、あの頃が一番がむしゃらに日本語を覚えようとしていましたね。娘が読んでいた国語の教科書を、どうして一緒に読みたかった」。娘さんは幼稚園・小学校で日々日本語に触れているため、マリキタさんが教科書を読み聞かせしても「お母さんの教科書の読み方はゆっくりすぎるから、もういいや」と言われたり、授業参観の日には、他の子どもたちがジロジロと見るため「お母さんは来なくていいよ」と言われたこともあったという。娘さん自身も英語の「r」と「l」をきちんと発音できることが、日本の子どもにとっては聞きなれない発音に聞こえたため、「トイレ (toilet)」と言う度にからかわれることもあった。何かを話せばすぐに他の子どもたちに笑われる…次第に話すことが怖くなり、全く話せなくなってしまう時期もあったという。

### ●きっかけ

マリキタさんにとっての大きな転機が訪れた。

「さかえ・日本語の会」(注1)で教わる第1期生だったマリキタさんは、ボランティアの方からフィリピン料理を日本の子どもたちに教えてみないかと声を掛けられた。

マリキタさん自身、日本で暮らしはじめた当初は家庭でフィリピン料理を作ったりすることはせず、また子どもにも「自分だけ違う」という思いをさせないように日本料理を作って食べさせていたという。「フィリピン料理を作ることができないということは、日本から母国の文化を否定されていることと同じだった」。

「自分に務まるだろうか」と躊躇しながら行なった「食と暮らしを体験する」講座。料理のみを教えるのではなく、フィリピンの歴史や文化、バンブーダンスの実演も交えながら、終始和気藹々とした雰囲気の中で進み、大成功をおさめた。そして、それはマリキタさんの娘さんにとっても、思いがけない転機だったようだ。「私が講座内で作ったフィリピン料理を、他の子どもたちが『美味しい』と食べている光景を見て娘はとても嬉しかったようです。その後は、『お母さん、フィリピン料理作って』と言ってくれたり…嬉しかったですね」。自分の母親が話すことを他の子どもたちが真剣に耳を傾けている、その光景が娘さんにとっては、誇らしい気持ちになれたのだろう。

### ●教えること、伝えること

次第に「伝える」ということの大切さを実感し始めたマリキタさん。幼稚園で一緒だった母親から「自分の子どもたちに英語を教えてもらいたい」との依頼を受け、地域で英語講座を始めることになった。それが、「インターナショナルキッズクラブ」である。

しかし、インターナショナルキッズク

### \* 家庭料理を作ってみよう

## Kare-kare カレカレ

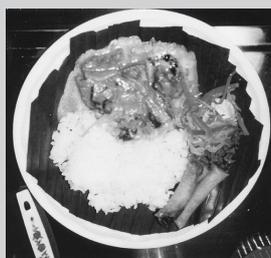
#### 材 料 (8人分)

牛尾 1000g、バナナの花、  
インゲン 125g、ナス 125g、  
ピーナッツバター ¼カップ  
えびの塩辛 適宜  
調味料：塩・こしょう・ニンニク (適宜)

ス・野菜を混ぜ、塩を加え味を調える。

#### ◆盛り付け

えびの塩辛とご飯を添える。



#### \*\*\*\* 作り方 \*\*\*\*

- ① 牛肉を一口大に切って柔らかくなるまで煮る (圧力鍋がよい)。
- ② ナス・インゲン・バナナの花を5センチの長さに切る。
- ③ ②に①の煮汁を加えて2分ほど煮る。
- ④ ピーナッツバターとカレカレの素を煮汁250ccで溶いてピーナッツソースを作る。
- ⑤ 柔らかくなった肉・ピーナッツソー

#### こんな時使ってみよう

- お腹がすきました  
「Gutom na ako グートム ナ アコ」
- お腹がいっぱいです  
「Busog na ako ブーソッグ ナ アコ」

### \* 体験しながらもっと深めたい

## 開発教材

#### ●開発教育教材

### 「NEW マジカルバナナ」

(特活) 地球の木



毎日私たちの口に入る食べ物はどこから来て、どんな人たちがつくっているのでしょうか？私たちの「買う」「食べる」

という行動が、世界のどんなところにもどのような影響を与えているのか、身近な果物バナナを通して気づいてもらうのがこの教材のねらいです。教育現場や地域でも実際に「マジカルバナナ」を使ったワークショップが行なわれています。

# インタビュー

ラブでの活動は、すべてがスムーズに進んだわけではなかった。ボランティア活動の拠点が整備されていない時代であり、地区センターや学校を点々として講座を行っていたため、その都度申請書の提出を求められた。

「今でも覚えていますよ。はじめて場所を借りるため申請に行ったときに、窓口で『身分証明書を提出してください』と言われ、とても憤慨したことがありますね。「どこに行っても国籍はつきまとうのか」そんなやり場のない思いを何にぶつけていいのかわからず、信頼のおけるボランティアの方に相談したところ、「私たち日本人も、手続きの際には身分証明書の提示を求められるのよ」と教えられ、納得したこともあった。予約していた日程が変更になった際に、再度日本語で書類を提出することも一苦勞であり、投げ出したくなるときもあった。

しかし、続けることによって少しずつ実りははじめたものもあった。それは、地域に暮らすフィリピンの子とも日本の子ともが、同じ場で一緒に英語を学ぶだけでなく、自然と笑いあったり遊ぶことができたことだ。そこから母親同士の交流も生まれていったようだ。

学校では、フィリピンの子ともたちがいじめられたり、またそれによって母親自身も元気をなくしてしまうこともあった。「自分の子どもを守っていくこともできない。それは子どもも辛いけど、親にとっても非常に辛い」。自分はどこに立っているのか、どこに向かっているの

か、すべてが手探りの日々が続いたマリキタさんにとって、インターナショナルキッズクラブでの活動により、母親としての自信を確かに取り戻せた、そんな印象をうけた。

## ●学校で、そして

「カレーにはバナナを入れるの?」「バナナの花は食べられるって本当?」子どもたちは、次々と心に浮かんだ「?」をマリキタさんにぶつける。小学校から依頼を受けて、フィリピンの歴史や文化を伝える授業を受け持つことがある。仕事が終わってからの授業の準備は、深夜に及ぶこともあるという。多忙な中でもマリキタさんは「子どもたちが身近なものから感じる『なんで?』という疑問から、フィリピン文化に目が向いていくことが嬉しい」と笑顔を絶やさない。

改めて来日してからを振り返り、「たとえ意識的ではないにしても、偏った考えを子どもたちに植えつけてしまっているのは、大人なんだな」とマリキタさん。一度身体にしみついた偏った考えは、子どもたちの心に自然とうまれる「なんで?」を奪う。だからこそ、一緒に遊んだり、学んだりしながら「感じる」ことはとても大切なことではないだろうか。

講師として、日本で暮らすフィリピン人として、そして母親としての自信を確かに持ち、発信しつづけるマリキタさんの横顔は、力強かった。

### 注1 さかえ・日本語の会

1995年10月に設立。在住外国人へ日本文化・言葉を伝えるなど、国際交流を活動内容としている。

## フィリピンあれこれ

7000もの島々からなるフィリピンは、多様な民族と文化を持つ国。

ここでは、私たちの身近な料理や遊び、教材などさまざまな切り口からフィリピンを紹介いたします。

興味のある項目から読んでみてください。

## \* コラム

### FTA

2004年11月に日比政府は、自由貿易協定（FTA）を核とする経済連携協定の締結合意をし、今年中の発効を目ざすこととなった。

経済連携協定は農水産品の他、鉱工業品分野等の開放策を盛り込む包括的な内容で、労働分野においては、フィリピンから看護師と介護士を受け入れることになっている。

フィリピンでは医師が看護資格を取り直して海外へ行くケースも少なくないほど、海外で働く経済的メリットが高く、希望者もあとを絶たない。

経済連携協定がフィリピン国内での医師や看護師不足を加速し、そこに暮らす人びとの健康に対する権利を奪うことだけは避けなければならない。そのためにも、かつて日本国内で過疎地から都市への「頭脳流出」を防ぐためにしてきた政策の経験を共有することも必要であろう。

また、日本国内においては、単なる「労働力」の補完としての仕組み・制度についての議論ではなく、「人間」が生活する中で生じる諸問題が付随するという視点が不可欠だ。

元々日本に暮らす人たちがつきたがらない業種を不足するからといって労働条件の改善が無いまま「受け入れ」をするのであれば、日本人がやりたがらない分野を、経済格差からやりたがる外国人への押しつけとなり、結局は「労働力」のつまみ食いになってしまう。

## ●国際理解教育教材

### 「フィリピン・ボックス」

ピナツボ復興むさしのネット

「フィリピン・ボックス」は、フィリピンの人びとの暮らしや文化、社会に触れるための小道具がぎっしり詰まった玉手箱のようなもの。子どもたち自身がたくさんのことを発見したり、疑問に思ったり…と国際理解の出発点になっています。「フィリピン・ボックス」は、フィリピンへ行ったことのない人でも活用できるよう、指導者／教員向けのマニュアル（ガイドブック）

も入っています。「総合的な学習の時間」をはじめ、学校の授業や、社会教育の国際理解プログラムなどでも利用されています。



## \* みんなで遊ぼう

### luksung tinik ラクスン テイニツ

フィリピンの女の子の代表的な遊びです。足と手を組み合わせて魚のほねのような形になります。4人以上集まれば、どこでも遊ぶことができます。

#### \*\*\*\*\* 遊び方 \*\*\*\*\*

- ① 2人が「魚のほね」になる。「魚のほね」の2人は、向かい合わせにすわり、足を前にのばし、足の裏を合わせる。合わせている足の上に、1人が片足をのせる。ほかの人は順番にその上を飛ぶ。
- ② 全員が飛び終わったら、「魚のほね」のもう1人が片足をのせる。ほかの人はまた順番にその上を飛ぶ。
- ③ 全員が飛び終わったら、1人が片手をひらいてのせる。ほかの人はまた順番にその上を飛ぶ。
- ④ 全員が飛び終わったら、もう1人が片手をひらいてのせる。
- ⑤ 全員が飛び終わったら、1人がもう片方の手をひらいてのせる。
- ⑥ さらにもう1人がもう片方の手をひらいてのせる。

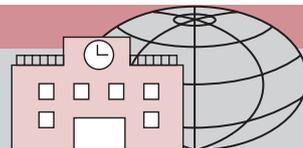
※飛び越えるときに、「魚のほね」に体が触れた人はアウト。

\* 出典：『フィリピンと出会う』（ピナツボ復興むさしのネット編、国士社、2002）



## 地球市民フォーラム

## 「世界のがっこう」



グローバル化が進み、世の中が急速に変わっていきます。そんな中で、共に豊かに生きていくために、どんな「学び」が必要でしょうか？ 12月～1月に行なわれたプレセミナーに続き、今度は展示なども交えてじっくり「学び」を考えます。2月4日(土)は、アフガニスタンに長年関わっておられる写真家の長倉洋海さんをお招きして「国際教育協力」について考える講演会と映画を、また、2月5日(日)は、神奈川県内で「多文化共生」「国際理解」にかかわる学びの現場から、7名の方をお呼びして、セミナーとパネルトークを行ないます。どうぞご参加ください！

## ① 国際教育協力の現場から

●日 時：2月4日(土)

11:00～12:30 映画「カブール・トライアングル」

14:00～16:00 長倉洋海さん(写真家)講演会

「アフガニスタンの小さな笑顔～山の学校支援の現場から～」

●場 所：あーだ 355 5階 映像ホール

●定 員：120名 ●参加費：無料

## ◆ 写真展示会 ◆

1月28日(土)～2月5日(日) 10:00～17:00

① 長倉洋海さんの写真展 ※月曜休み

「アフガニスタンの山の学校から」等

② 朝鮮学校の日常 写真展

③ OXFAM JAPAN「世界の子どもに教育を」パネル  
3種類のパネルを展示します。

●場 所：あーだ 355 3階 企画展示室



## ② 多文化共生・国際理解の視点から

●日 時：2月5日(日)

※11:00～12:30、13:30～15:00のセミナーについて

A, B, C 種類の講座が、3つ別々の場所で同じ時間に  
進行します。同じ時間帯に行なわれる3つのうち1つを選  
んでご参加ください。A, B, Cの組み合わせは自由です。

●場 所：あーだ 355 1階 ワークショップルーム他

●定 員：A 1～C 2 各40名、パネルトーク120名

●参加費：無料(「給食」は実費負担)

●協 力：さかえ国際理解と交流の会

●申込み方法：氏名、連絡先(TEL・FAX・E-mail)、ご希望  
の講座(2月5日分のみ。2月4日分は申込不  
要です)を下記問合せ先までご連絡ください。

●問合せ：国際協力課(担当：成田)

TEL: 045-896-2964 FAX: 045-896-2945

E-mail: minsai@k-i-a.or.jp ※祝日除く月曜休み

※講師プロフィールなど、更に詳しい情報は、上記にご請求いただくか、  
協会ホームページをご覧ください。 <http://www.k-i-a.or.jp>

## ■ 2月5日(日) タイムスケジュール

	A枠 日本の中の、「外国の学校」	B枠 異文化を、どう理解する？	C枠 ひとりひとりの子どもと向き合う
<b>1 時間目</b> 11:00～12:30	<b>セミナーA 1</b> 講師：潘 民生さん (横浜山中中華学校校長)	<b>セミナーB 1</b> 講師：ジギャン・クマル・タバさん (横浜国立大学大学院生、ネパール出身)	<b>セミナーC 1</b> 講師：梅田玲子さん (横浜市立潮田中学校教員、国際教室担当)
12:30～13:30	<b>給 食</b> (講師の皆さんが関わっている『学びの場』で、子どもたちが食べている昼食をお出しします) ※5～600円程度の実費をご負担ください		
<b>2 時間目</b> 13:30～15:00	<b>セミナーA 2</b> 講師：チャン・マルリョさん (神奈川朝鮮中高級学校 英語科教員)	<b>セミナーB 2</b> 講師：天野和広さん (開発教育を考える会、青年海外協力隊ニジェールOB、もと在タイ日本人学校教員)	<b>セミナーC 2</b> 講師：ワスナニモニカ孝子さん、猿橋順子さん (不登校の子のための居場所「ハートフルソラたまごの輪」代表)
<b>3 時間目</b> 15:15～17:00	<b>パネルトーク「ともに豊かに生きるための学びって？」</b> 山西優二さん(早稲田大学教授)を司会に、6人の講師が集まり、「ともに豊かに生きるための学び」をテーマに、参加者を交えて語り合います。		

あーだ 355に、ほんものの“ゲル”がやってくる！  
モンゴルの暮らしと文化展

遊牧民の移動式住居「ゲル」や生活用品、約100点の写真で見ると、草原の暮らし、都市の暮らし。映画、馬頭琴のコンサート、民族衣装の試着、ワークショップ、クイズなど、子どもから大人まで楽しめる企画がいっぱいです。特に2月25日(土)、26日(日)の2日間は、「モンゴル・デイ」と題して、たくさんのプログラムが行われます。ぜひ、おいでください。

●日 時：2月16日(木)～3月14日(火) 9:00～17:00

※祝日除く月曜休み

●会 場：あーだ 355 3階 企画展示室他

●入場料：無料

●監 修：小長谷有紀(国立民族学博物館教授)

●協 力：国立民族学博物館、モンゴル政府観光局

●問合せ：地球市民学習課(担当：木下(理)、菅沼)

TEL: 045-896-2898 ※祝日除く月曜休み

## ●「ゲルを組み立ててみよう」

3月5日(日) 10:00～12:00 展示会場にて  
小学5年生以上、定員20名(事前申込み制)

## ■ モンゴル・デイのプログラム

## ● ギャラリー・トーク「遊牧という現代文明」

小長谷有紀先生(国立民族学博物館教授)  
2月25日(土) 14:00～15:30 展示会場にて

## ● モンゴルの民話を読もう

「かながわ子ども広場」の皆さん他  
2月25日(土) 14:00～15:30

ワークショップ・ルーム(1階)にて

## ● 映画「らくだの涙」上映会

2月25日(土) 11:00～12:30

2月26日(日) 11:00～12:30

13:00～14:30

映像ホール(5階)にて

## ● コンサート「草原に吹く風」

セーンジャーさん(馬頭琴)他

2月26日(日) 15:30～16:30

プラザホール(2階)にて



## ■ ワークショップ

## ● 「ゲルを分解してみよう」

3月4日(土) 15:00～17:00 展示会場にて

小学5年生以上、定員20名(事前申込み制)

## 地球市民学習リーダーセミナー

## こどもたちに必要なことはなに？

外国籍児童・生徒の教育の実態調査と多文化フリースクールの運営から見てきたこと

神奈川県に暮らす外国にルーツを持つ人々は年々増えていきます。たくさんのおもたちが未来に向かって学んでいます。

今回は、「多文化共生センター・東京21」の代表である王慧権（ワンフイデン）さんと同センターの職員の方をお迎えし、同センターが2004年度に実施した『東京都23区の公立学校における外国籍児童・生徒の教育の実態調査報告』と、今年始まった「多文化フリースクール」のお話しを聞き、外国にルーツを持つこどもたちに必要なことは何か、私たちにできることは何かを考えます。

- 日 時：2月19日（日）13：30～16：00
- 場 所：あーだ 355 1階・会議室
- 対 象：教育や NGO 活動に興味がある人など
- 定 員：30名 ●料 金：無料
- 申込み方法：TEL、FAX、E-mailのいずれかの方法で、(1)講座名、(2)氏名（ふりがな）、(3)所属（学校名や何か参加している団体など）、(4)連絡先（電話、FAX、Eメール）を下記問合せ先までご連絡ください。
- 問合せ：企画情報課（担当：藤分（ふじわけ））  
TEL：045-896-2896 FAX：045-896-2945  
E-mail：kikaku@k-i-a.or.jp ※祝日除く月曜休み

## (財)神奈川県国際交流協会 会員の集い

メリーランド州英会話  
講師シガールさんと

鎌倉散策!



米国メリーランド州から英会話講師として来日しているシガールさんは、英会話の授業だけでなく、日本研究を通して神奈川県と友好提携を結んでいるメリーランド州との交流の橋渡し役でもあります。鎌倉散策を通じて、シガールさんと会員の皆様との交流をはかる「会員のつどい」を開催します。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時：3月5日（日）13：00～17：00
- 内 容：大仏ハイキングコースの散策、由比ヶ浜での交流会  
\*雨天時は、シガールさんの日本研究成果の発表と交流会
- 対 象：国際交流協会会員及びその家族（会員証をお持ちください）
- 定 員：20名（事前申込制）
- 集 合：北鎌倉駅 13：00
- 料 金：500円  
（ハイキング資料、レクレーション、保険代込み）
- 問合せ・申込み：国際協力課（担当：富本）  
TEL：045-896-2964  
※祝日除く月曜休み



## 多言語情報の流通を考える

～あるべき多言語生活情報の仕組みづくりに向けて～

2004年～2005年にかけて、協会が手がけた多言語情報の流通にかかわる調査結果をもとに、日常生活から防災に至るさまざまな局面を考慮した、より効率的な多言語情報の流通の仕組みづくりを展望するフォーラムを開催します。

## ◇2004～2005年度 調査概要報告

## ◇事例発表①

自治体等の多言語情報流通にかかわる仕組み  
（横浜市市民局広報課）

## ◇事例発表②

外国籍県民当事者の取り組み  
（カンボジア調整委員会 コイ・パダラさん 予定）

## ◇事例発表③

外国人相談窓口から見えること  
（厚木市外国人相談窓口スタッフ 川瀬スージーさん）

## ◇事例発表④

エスニックメディア調査の報告  
（かながわ自治体の国際政策研究会 予定）

## ◇パネルディスカッション：今後の展望、具体的な取り組みの可能性に向けて

コーディネーター：渡戸一郎さん（明星大学教授）  
パネリスト：小池昌さん（在日外国人情報センター）  
小林徳子さん（かながわ難民定住援助協会）  
塩原良和さん（大阪経済法科大学 アジア太平洋センター）

## ◇質疑応答

- 日 時：2月7日（火）14：00～16：30
- 場 所：あーだ 355 1階会議室
- 主 催：神奈川県国際交流協会、かながわ自治体の国際政策研究会
- 対 象：自治体の国際関連部署、多言語情報発行部署等職員、社会教育施設等職員、国際交流協会職員、外国人相談窓口スタッフ等、外国籍県民支援 NGO
- 定 員：80名程度 ●参加費：無料
- 問合せ・申込み：企画情報課（キム）  
TEL：045-896-2896 ※祝日除く月曜休み



SWITCH TO FAIR TRADE 世界フェアトレード・デイ・イベント in 横浜

2月19日（日）13：30～16：30 地球市民かながわプラザ ホール 資料代500円

### 「現地の状況と紙布開発：フェアトレードがもたらすもの」

- 13：30～ フェアトレードとネパリ・バザールの活動紹介
- 13：40～ ファッションショー ネパリ・バザール 2006春夏コレクション
- 14：00～ ビデオ上映 現地の様子
- 14：35～ 音楽演奏 パンチャ・ラマ氏
- 14：50～ 基調講演「現地の状況と紙布開発：フェアトレードがもたらすもの」  
ヤングワオ代表 ウシャ・ダンゴル  
通訳 ネパリ・バザール代表 土屋春代
- 15：20～ シンポジウム「製品開発の狙いと商品までの長い道のり」  
ヤングワオ代表 ウシャ・ダンゴル 紙布担当 マンマヤ・マハラジャン  
染織作家 大塚瑠美 ネパリ・バザール代表 土屋春代
- 15：50～ Q&A このあとマンマヤさんによる糸紡ぎデモンストレーションもあります。



申込 **ネパリ・バザール** TEL:045(891)9939 FAX:045(893)8254  
 問合せ <http://www.nbazaro.org/> E-Mail: [common@nbazaro.org](mailto:common@nbazaro.org)

主催：ネパリ・バザール 後援：国際フェアトレード連盟IFAT、横浜市、(財)神奈川県国際交流協会、(財)横浜市国際交流協会、(社)日本ネパール協会  
 協力：レストラン「メルヘン」当日、ネパリ・バザールのフェアトレードスバイスを使ったネパールカレーが特別メニューで登場!! お楽しみに!

世界フェアトレード・デイ・イベントは5月28日飛騨高山にて One Day Fair Trade School

